

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2025年9月26日）

■第5版 第1刷（2025年1月10日発行）の修正・更新箇所

| 頁 | 場所 | 修正前 | 修正後 | 補足 | 掲載 |
|---|-------------------|---|---|----------------|----------|
| 第1章 | | | | | |
| 23 | 図9 | | | ※1を参照 | 25/09/05 |
| 24 | 左段上から7行目 | 左から7番目の塩基TがAに | 左から7番目の塩基GがAに | 図10の修正に伴い塩基を変更 | 25/09/05 |
| 24 | 左段上から9行目 | 別のアミノ酸(▲)に | 別のアミノ酸(◎)に | 図10の修正に伴い記号を変更 | 25/09/05 |
| 24 | 右段上から11行目 | 図11にイントロンとエキソンのイメージを模式的に示した。このイントロン内に存在する配列の個人差も遺伝子多型である。 | 図11にイントロンとエキソンのイメージを模式的に示した。イントロン領域は転写されたのちに取り除かれ、エキソン領域のみがたんぱく質の設計図として使われる。このイントロン内に存在する配列の個人差も遺伝子多型である。 | 赤字部分を追加 | 25/09/05 |
| 24 | 図10 | | | ※2を参照 | 25/09/05 |
| 25 | 図11 | | | ※3を参照 | 25/09/05 |
| 第3章 | | | | | |
| 47 | 表3 | 難消化性デキストリン | α-限界デキストリン | | 25/09/26 |
| 51 | 左段下から4行目 | 難消化性デキストリン | α-限界デキストリン | | 25/09/26 |
| 51 | 図13 右側 | 難消化性デキストリン | α-限界デキストリン | | 25/09/26 |
| 61 | 右段上から12行目 | 難消化性デキストリン | α-限界デキストリン | | 25/09/26 |
| 61 | 表11 | 難消化性デキストリン | α-限界デキストリン | | 25/09/26 |
| 62 | 図24 | 難消化性デキストリン | α-限界デキストリン | | 25/09/26 |
| 62 | 左段上から2行目 | 難消化性デキストリン | α-限界デキストリン | | 25/09/26 |
| 第8章 | | | | | |
| 159 | 図8 | | | ※4を参照 | 25/03/14 |
| 「『日本人の食事摂取基準（2025年版）』策定検討会報告書」の情報更新に伴い、以下の通り、本文の情報を更新いたします。 | | | | | |
| 付表 日本人の食事摂取基準（2025年版） | | | | | |
| 199 | 表1 | 糖質 | 糖類 | | 25/01/10 |
| 199 | 表1 | 主要栄養素バランス | エネルギー産生栄養素バランス | | 25/01/10 |
| 200 | 表2 30～49歳の男性の参考体重 | 70.1 | 70.0 | | 25/01/10 |
| 200 | 表2 65～74歳の男性の参考体重 | 69.9 | 64.4 | | 25/01/10 |
| 200 | 表2 脚注① | 平成28年国民健康・栄養調査における | 平成30・令和元年国民健康・栄養調査の2か年における | | 25/01/10 |
| 201 | 表4 注1 | 食事摂取状況のアセスメント | 食事評価 | | 25/01/10 |
| 201 | 表5 | 図9における観察値から推定した体重1kgあたりの基礎代謝量(A)(kcal/kg 体重/日) | 図9における観察値から推定した体重1kgあたりの基礎代謝量(A) (体重1kgあたりの基礎代謝量基準値)(kcal/kg 体重/日) | | 25/01/10 |

| | | | | | |
|-----|--------------------------------------|---------------------------------------|---|--|----------|
| 201 | 表5 75歳以上男性の参照体重の場合の基礎代謝量基準値(A) × (B) | 1,100 | 1,310 | | 25/01/17 |
| 204 | 表9 n-6系脂肪酸 8～9(歳)女性の目安量 | 7 | 8 | | 25/01/17 |
| 206 | 表11 ビタミンB1 脚注① | チアミン塩化物塩酸塩(分子量 = 337.3) の重量 | チアミン塩化物塩酸塩(分子量 = 337.3) 相当量 | | 25/01/10 |
| 207 | 表11 ビタミンB6 脚注② | ピリドキシン(分子量 = 169.2) の重量 | ピリドキシン(分子量 = 169.2) 相当量 | | 25/01/10 |
| 207 | 表11 ビタミンB12 脚注③ | シアノコバラミン(分子量 = 1,355.4) の重量 | シアノコバラミン(分子量 = 1,355.4) 相当量 | | 25/01/10 |
| 207 | 表11 葉酸 脚注③ | ブテロイルモノグルタミン酸(分子量 = 441.4) の重量 | 葉酸(ブテロイルモノグルタミン酸, 分子量 = 441.4) 相当量 | | 25/01/10 |
| 208 | 表11 ビタミンC 脚注① | L-アスコルビン酸(分子量 = 176.1) の重量で | L-アスコルビン酸(分子量 = 176.1) 相当量として | | 25/01/10 |
| 208 | 表12 ナトリウム 1～2(歳)の女性の目標量 | (3.0未満) | (2.5未満) | | 25/01/10 |
| 208 | 表12 カリウム 1～2(歳)の男性の目標量 | - | 900 | | 25/01/17 |
| 208 | 表12 カリウム 1～2(歳)の女性の目標量 | - | 800 | | 25/01/17 |
| 211 | 表13 球蛋白 3～5(歳)の女性の推定平均必要量 | 45 | 40 | | 25/01/10 |

図表

※1 転写の過程を追加し、遺伝子からたんぱく質が作られる工程に情報を追加しました。また、ウラシルについての補足を加えました。

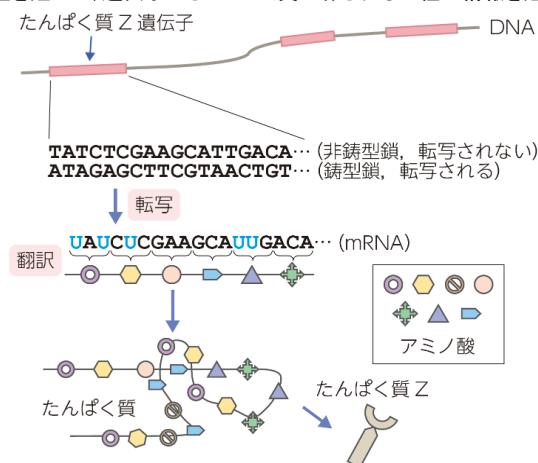


図9 遺伝子からたんぱく質へ
mRNAではT(チミン)の代わりにU(ウラシル)が用いられる

※2 図9と同様に転写の過程を追加し、変異後に開始コドンが含まれないよう一部の配列を調整しました。

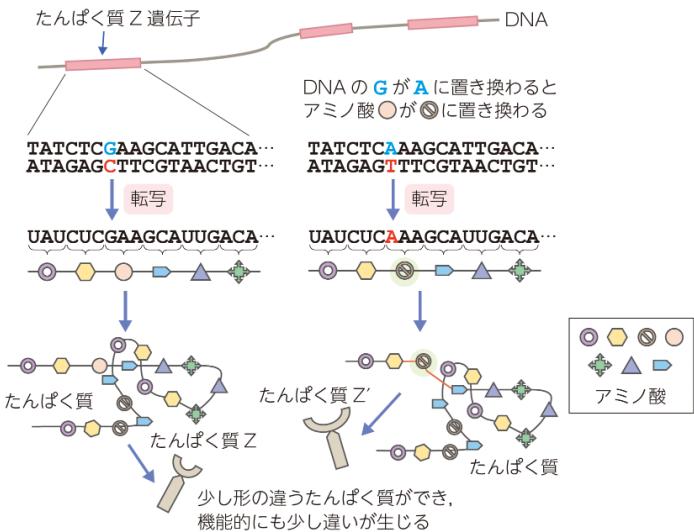


図10 遺伝子多型と体質の差

※3 イントロンが転写後にスプライシングによって取り除かれる過程を加え、全体を整理しました。

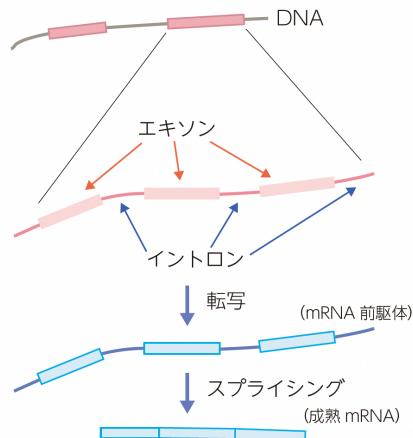


図11 イントロン（遺伝子内で設計図に
ならない配列）とエキソン

※4 赤字部分を修正いたしました（「約 90%」を追記）

